教育研究業績書

2016年10月01日

所属：共通教育部　　資格：教授　　氏名：濱谷　英次

研究分野	研究内容のキーワード
技術社会史、メディア論	技術的慣性、技術革新、共進化、マルチメディア、モバイル
学位	**最終学歴**
博士（人間科学）、修士（学術）、理学士	大阪大学大学院 人間科学研究科　後期博士課程

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 要点カードとミニ課題を組み合わせた指導	2012年４月～現在	100人規模の授業においては、学生との双方向のやり取りが難しいが こうした状況を緩和するため、授業開始時のその回の授業の要点を 質問形式で示すとともに、授業の最後ではその日の授業の内容を 確認するため、ミニ課題を課し、理解状況を把握している。
2 作成した教科書、教材		
1. ホームページの作成（基本編）	2012年7月31日～現在	前年度までは既存のテキストを利用し指導を行っていたが、学生の 受講状況を踏まえるとともに、学習効果を一層高めるため、独自に テキストを作成し、配布した。特に、例題として取り上げるテーマ は学生にとり身近なものを中心に据えた。以後、前年度の授業結果 を踏まえ、改訂を重ねている。
2. プレゼン講座	2005年03月	プレゼンテーションの基礎を学ぶ学生向けに、情報教育研究センター の開発した動画オーサリングツールを活用して、6コマ分の授業に相 当するマルチメディアコンテンツを作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
1. 家具のオプションユニット取付構造（特許第4219118号）	2008年11月21日特許登録	大学教育で使用するデスクは、種々の授業形態に柔軟に対応できる 仕様のものが望ましい。本特許では、デスクの基本構造体となる 支持ユニットに対し、授業内容に応じて必要となる機器類が簡単に 取りつけられるようにしたものである。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. インターネット活用のためのネットワーク入門	共	1998年03月	綜文館	濱谷・中植・小野・井上・宮本 インターネットという言葉が普及しつつあるが、言葉の認知度の高さに比べ、インターネットそのものについての理解は進んでいない。こうした状況を踏まえ、インターネットの基礎、電子メールの使い方、インターネットを利用した情報探索、利用上のモラルや注意点などについて詳述した。また、キャンパスネットワークへの接続方法についても、具体的に解説し、初心者の助けとなる様、工夫した。（pp.１～28とpp.136～186濱谷，pp.37～86，pp.29～36とpp.87～132とpp.187～196小野，pp.197～202，pp.20

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				3～205)
2. 情報メディアの理論と実際－Macintoshで学ぶマルチメディアー	単	1996年09月	綜文館	コンピュータを利用してプレゼンテーションやコミュニケーション活動に役立てるための考え方やその方法を学ぶことを狙いにしている。概説論では，コンピュータが人にとって身近なものになる上で重要なユーザーインターフェースや、情報の形態や関係付けについて解説している。実践編では、グラフィックスソフトやハイパーテキストの考えに基づいて作られたハイパーカードを用いた作品作りの具体例を示した。全（pp.136）
3. 標準数学Ｃ教授資料	共	1995年03月	啓林館	濱谷英次、岩井斉良、小嶋一元、飛田武幸 高等学校において、数学Ｃを指導する場合の指導の要点や数学的な背景について解説した。数学Ｃは選択履修であるため、各章の独立性を保つとともに、数学の他の科目との関連やコンピュータの全般的な利用についても配慮した。筆者の担当した数値計算の章では、方程式の近似解の数学的理論とともに、コンピュータによる計算処理による解の導出手順について解説した。分担　濱谷（pp.87～126）
4. 標準数学Ｂ教授資料	共	1995年03月	啓林館	濱谷英次、鬼沢忠夫、辻本純一、飛田武幸 高等学校において、数学Ｂを指導する場合、参考となる関連知識や指導の要点などについて解説した。数学Ｂは数学Ｉの内容を基礎にしているため、その接続性や系統性に留意することを強調した。また、筆者の担当した算法とコンピュータの章ではこれまでの実践研究での知見を踏まえた素材を取り上げ、生徒が興味を持つように工夫するとともに、論理的な思考力、判断力が養われるような問いや例題を重点的に配置した。分担　濱谷（pp.135-162）
5. 高等学校数学科用教科書「数学Ｂ」	共	1994年02月	啓林館	鬼沢、辻本、飛田、濱谷 平成６年度から実施されている高等学校新学習指導要領では、パソコンなどの情報機器を積極的に活用することが期待されている。しかし、数学は理解度の差が大きく、生徒の関心を高めて学習効果をあげる工夫が必要となる。本書では、情報教育の具体化に関する各種の研究成果を踏まえながら、高校生がパソコンを利用して、数学的思考力や計算処理に対して、より深い理解と数学的興味が得られるよう、例題や問いを中心に工夫した。　分担　濱谷（pp.135～162）
6. 高等学校数学科用教科書「数学Ｃ」	共	1994年01月	啓林館	鬼沢、辻本、濱谷、飛田 平成６年度から実施されている高等学校新学習指導要領では、パソコンなどの情報機器を積極的に活用することが期待されている。特に、数学Ｃでは情報化・高度技術化などの社会の進展に伴い、コンピュータの著しい発展と普及を考慮し、積極的にコンピュータを活用して数学を学習することが期待されている。このため、いずれの単元においても、指導内容に即したプログラムを多数用意し、実習を通して理解を深める工夫をした。数値計算の章では、計算誤差にも触れ、現実的制約にも関心を払う態度を養えるようにした。　分担　濱谷（pp.87～126）
7. パソコンによる情報処理「Lotus1-2-3入門」	共	1993年05月	綜文館	井上、萬代、濱谷 代表的な表計算ソフトであるLotus1-2-3を利用して、作表・集計処理の基本を学び、情報処理の実際を具体的に理解させることを目標に編集した。また、グラフ機能やデータ検索の方法、組み込み関数の利用についても紹介し、処理の自動化を行うマクロ機能についても言及し、発展的な学習へも対応できるようにした。全編を通じ、具体例を示し、学習者自らが機器を用いて自習できる様、配慮した。　分担　濱谷（pp.131～169）
8. 高等学校数学科用教科書「数学Ａ」	共	1993年01月	啓林館	濱谷、岩井、小島、飛田 平成６年度から実施される新学習指導要領では、パソコンなど情報機器の積極的な活用が期待されている。特に数学では、理解度や習熟度の差が大きく、指導法に工夫がいる。本教科書では指導要領の趣旨に沿い、生徒がパソコンなどを数学を学ぶ上で、有効な手段であることを実感させるように例題や問題を工夫した。とりわけ、初心者が機器の操作に戸惑うことのないよう、導入部分の内容を吟味した。プログラムの考え方に自然に馴染めるように、名刺作りを具体的に体験させた後、数学の話題へと発展するようにした。　分担　濱谷（pp.134～170）
9. パソコンによる情報処理　MS-DOSとマルチプラン入門	共	1989年01月	培風館	井上・水田・濱谷・余田 コンピュータを個人の情報処理の有効な手段として利用する上で不可欠といえる表計算ソフトの利用の仕方について、マルチプランを例としてとりあげ、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				実習を交えながら紹介している。また、パソコンのＯＳについても、基礎的事項を中心に理解が得られるように配慮した。　分担　濱谷（pp.1～50，pp.160，pp.167～179）
10. ＣＡＩへの招待　－応用実践編－	共	1988年01月	同文書院	菅井・佐賀・ジェンキンス・木下・濱谷他14名 「ＣＡＩへの招待－理論編」の続編として発行。最近のコンピュータ教育の動向やＣＡＩソフトの開発の基礎理論、開発の実際とその利用法、ＣＡＩ先進校における実践など、ＣＡＩの活用のヒントとなる事項を網羅している。筆者は先進校の実践例を担当した。　分担　濱谷（pp.285～295）
11. PC9800シリーズによるBASIC	共	1987年05月	綜文館	濱谷・西川・馬野・萬代 16ビットパソコンの代表機種であるPC9800の各機種を利用して、BASICを学ぶための入門書であるが、パソコンの利用環境について、より広範な理解が得られるように、MS-DOSなどのＯＳや各種言語についても解説を加えた。また、パソコン通信についても基礎知識が得られるように配慮した。　分担　濱谷（pp.2、　pp.62～104、　pp.124～132、　pp.200～213）
12. PC8800シリーズによるBASIC	共	1986年02月	綜文館	濱谷・西川・馬野 ８ビットパソコンのPC8800シリーズ各機種を用いて、BASIC言語を学習するための入門書である。各章ごとに例題、練習問題を配置し、情報処理教育用のテキストとして利用できるように配慮した。　分担　濱谷（pp.134～214）
13. 高校数学とコンピュータ	共	1985年06月	日本評論社　別冊数学セミナー、コンピュータと数学シリーズ第６巻、コンピュータと数学教育論	馬野・西川・濱谷 高校段階において、コンピュータを数学教育にどのように利用するかについて、筆者らの実践研究をまとめて報告したもの。とくにローカルエリアネットワークの利用について言及している点が新しい。同時に開発した教育ソフトウェアのプログラムリストもあわせて公開した。　分担　濱谷（pp.122～132）
14. 高校生のためのBASIC	共	1985年04月	綜文館	大阪府科学教育センター研究協力委員として執筆（研究協力委員10名）　大阪府立高等学校普通科での情報処理教育推進のためのテキストとして作成した。既成の類書では、コンピュータの５大機能や数値計算についての記述から始まるのに対し、筆者らの取り組んだ実験授業の結果を踏まえ、グラフィックスの章から導入している点がユニークである。 分担　濱谷（pp.60～64，pp.78～85）
2 学位論文				
1. 携帯電話を巡る技術社会史　技術的慣性から社会的慣性へ	単	2012年9月		技術の進化発展を論じる際、従来は技術決定論や社会構築主義等の概念が用いられるが、携帯電話等を巡る事象には適応しにくい。そこでトーマス・ヒューズの提唱した技術的慣性を踏まえ、一定の条件を設定すると、より明快に説明できることを示すとともに、社会的慣性という見方を提唱した。
2. デジタルメディア環境におけるコミュニケーションの変容について	単	2005年01月		携帯電話が人のコミュニケーション行動に与える影響について、複数の調査結果を用い分析した結果、携帯電話は必ずしも距離を克服するメディアとして機能せず、屋外利用の割合も多くはない。また、携帯電話は、対面行動の抑制よりも、むしろ活性化する傾向があり、人間関係が希薄になっているとの見方も、必ずしも当てはまらない。「心理的近隣」という電子コミュニティを含む「ケータイ生活圏」が構成されつつあることを論じた。
3 学術論文				
1. 日本におけるモバイル環境の進化過程と課題	単	2010年03月	武庫川女子大学紀要（人文・社会科学編）	1990年代半ばから今日までを情報インフラという視点からモバイル環境の進化過程を概観している。携帯電話は、普及するにつれモバイル環境での存在感を増し、関連技術の進展とともに、携帯電話をポータルとした各種のサービスが一層広がりつつある。また、携帯電話はパソコンなどコンピュータよりも遥かに個人との結びつきが強い。この状況を踏まえ、携帯電話関連の事象を中心にモバイル環境の進化の論理と課題を明らかにする。
2. 生活インフラとしての携帯電話	単	2010年01月	情報化社会・メディア研究（放送大学情報化社会研究会）	携帯電話の普及初期から成熟期に至る1990年代半ば以降、最近までの期間に注目し、携帯電話の機能やサービスがどのような経緯で実現したかを概観し、代表的な機能やサービスの利用状況を分析することにより、日々の生活との関連の度合いから「生活インフラ」としての携帯電話の在り方を考察している。
3. 情報教育の新たな段階に向けて-学習者の多様化とeラーニング	単	2008年12月	情報教育研究センター年報2007	本学での全学的な情報教育を総括し、現状での課題を整理するとともに、課題の一つである多様化する

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				学生の情報リテラシーを一層向上させるために、従来の習熟度別講座編成に加え、上級クラスの学習にeラーニングを導入することを提案した。また、その際整備すべき条件についても論じた。
4. 情報教育における「ポスト2006年問題」	単	2007年12月	情報教育研究センター年俸2006	高校で必修教科「情報」を学んだ生徒が入学するようになり、学生の情報リテラシーは全般的に向上しつつあるが、一方で従来よりも分散化傾向が強まりつつある。こうした状況を踏まえた情報教育の課題と今後の見通しについて論じている。
5. e-Learningによる英語学習の試行―学習促進のための効果的な支援の在り方の考察―	共	2004年03月	メディア教育研究（メディア教育開発センター）　第12号	濱谷英次・竹田明彦・野口ジュディ・岡田由紀子・田中靖子・井上純子 e-Learningを英語のリメディアル教育に応用し、英語力が比較的弱い大学生の英語学習の支援を目的とする。教材はメディア教育開発センター開発のものを利用し、本学の全学科から参加学生を募り、自主学習に取り組ませた。その間、対面指導、印刷物配布、掲示、電子メール、電子ニュースレター、電話等を駆使し学習を支援した。その結果、電子メールによる迅速な対応が学習活動を非常に活性化させることが判明した。担当（pp.17～20，pp.32～34，pp.35～40）
6. マルチメディア環境を利用した情報リテラシーの育成－平成13年度「特色ある教育研究」の概要－	単	2003年02月	情報教育研究センター年報2001通巻８号	大学教育の情報化の進展を踏まえ、教育活動にマルチメディア機器を活用し、情報リテラシーの育成を目指している。具体的には、ノートパソコンを貸与し、小規模集団のゼミや演習での利用と、多人数集団として共通教育科目受講者による利用の２つの場合について比較した。その結果、小集団ではノートパソコンの可搬性を生かした多様な利用形態が見られる。一方、多人数集団での利用は情報基礎教育の実施で充足されつつある。
7. モバイル機器を利用した学習活動のマルチメディア化に関する研究	共	2002年03月	平成11年度～13年度科学研究費補助金（萌芽的研究）研究成果報告書	濱谷英次・宮本紘平・中植雅彦・小野賢太郎・岡田由紀子 大学の情報化の進展に伴い、マルチメディア機器を活用した授業が増えている。これは多様なマルチメディア情報を教材として提示することを意味するが、学習者である学生は提供される情報を受容する主な手段はノートによる記録である。教授者側と学習者側の情報のやりとりに関する格差を是正する方途を探ることが本研究の目的である。現状ではWebをベースとした情報共有などを実現することが有効との知見を得ている。全（pp.60）担当（pp.１～３，pp.７～11，pp.26～32，pp.53～60）
8. マルチメディア環境を利用した情報リテラシーの育成　－平成12年度「特色ある教育研究」の概要－	単	2002年03月	情報教育研究センター年報2000　通巻　７号	教育環境の情報化が急速に進展したことを踏まえ、教育活動にマルチメディア機器を活用することにより、情報リテラシーを育成することを目指している。具体的には、ノートパソコンを多数導入し、ゼミや演習などの小規模集団での利用、及び共通教育科目受講者など比較的多人数集団での利用を試み、学習活動への寄与を検証する。学生の感想等から、学習活動の自由度が高くなったことや自主学習に有効活用していることが判明した。全（pp.31）
9. マルチメディア環境を利用した情報リテラシーの育成－平成11年度「特色ある教育研究」の取り組みの概要－	単	2000年12月	情報教育センター年報'99　通巻7号	教育の情報化は、従来の情報教育という枠を越えて広く大学教育全般に広がりつつある。本研究では、マルチメディア環境の整備が学内で進みつつあることを踏まえ、多様な教育活動の中で、学生の情報リテラシーを育てることを目指している。具体的には、ノートPCを学生に貸与し、数十人規模での授業やゼミなど比較的小規模の学習活動での効果を比較した。その結果、いずれの形態においても、学生の満足度が高いことが判明した。全（pp.10/23）
10. 武庫川女子大学におけるマルチメディア環境整備の概要	単	1999年11月	情報教育研究センター年報'98　通巻６号	大学教育の改革、特に授業の改善について多くの議論があるが授業環境としての教室の整備が大きな課題になりつつある。本稿では本学における教室のマルチメディア化の取り組みについて、企画・実施までの一連の作業を踏まえ、教師が行う教授活動を強力に支援する教室環境の在り方について論じている。特に、各種の機器を授業で活用する場合、機器類を統合し操作性を大きく改善したマルチメディア操作卓の開発の詳細を論じた。全（pp.21）
11. マルチメディア環境と大学教育	単	1998年08月	情報教育研究センター年報'97　通巻５号	教育における情報化の動きは、ネットワークインフラの整備からマルチメディア環境の活用へと進みつつある。本稿においては、国のマルチメディア施策を概観するとともに、授業改革の必要性について論じている。学生による授業評価の結果やネットワーク環境の整備を踏まえ、双方向性の授業や遠隔授業など多様なカリキュラムの提供が期待される。さらに、具体化に伴う課題として、支援体制、教員研修、教育業績の評価が重要となる。全（pp.10）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
12. インターネットを利用した仮想スクールシステムの開発（中間報告）	共	1997年08月	情報教育研究センター年報'96　通巻５号	井上・濱谷・中植・小野 キャンパスネットワークの構築を踏まえ、学生所有のノートパソコンを端末とし、サーバー上にWeb Forumを設け、マルチメディアを利用したネットワーク学習支援システムを開発した。本報告では、本格的な利用の際の問題点を探るため、モニター学生に対し予備的利用を行った結果についてまとめた。実施に際しては、学習活動の前段階として、ネットワークについての理解が重要であることが分った。（pp.１～３，pp.９～10，pp.６～８，pp.４～６）
13. キャンパスネットワーク構築の理念と現状①構築の経緯と考え方	単	1996年06月	情報教育研究センター年報'95　通巻４号	平成６年度から８年度にかけて構築を行ってきたキャンパスネットワークについて、その経緯を学内状況や社会情勢を踏まえて分析するとともに、３ヶ年計画の特徴について詳述した。特に、学内の多様なニーズや将来への見通しと現実の制約との兼ね合いから、技術的にどのような解決策があるかについて論じている。さらに、キャンパスネットワークそのものの意義について、教育・研究・事務・管理の面からも検討を加えた。全（pp.14）
14. メディア環境の変化を踏まえた大学授業の在り方	単	1996年03月	武庫川女子大学教育研究所研究レポート　第14号	マルチメディアやインターネットという言葉に代表されるメディア環境が急速に広まる状況下での若者とメディアとの関わりについて論じている。メディア利用に際しての若者の態度は、明らかに大学における学習活動へも強く影響を及ぼしつつあり、いわば「要領」という形で顕在化しつつある。こうした事態を踏まえつつ、学生を主体的な学習者へ変えるためには、情報インフラの整備と教員の意識の改革が必要となることを提言した。全（pp.12）
15. 大学・短大における情報発信型教育の試み	単	1995年03月	武庫川女子大学教育研究所通巻第12号	大学・短大の大衆化、社会全般の情報化に伴い、自己確認、自己確立がないまま大学生活を過ごす学生が増えつつあるように思える。このような状況の打開と専門教育への知的関心の発掘を援助する試みとして、１年次の初期演習の科目を利用して、自由テーマによるレポート作成を過去４回試みた。この結果、実践を通じて、学生に内在する知的好奇心の高まりや大学での学習についての理解が深まることが分った。
16. 情報教育の在り方についての考察ー私立大学情報教育協会大会に見る発表テーマの分析からー	単	1995年03月	情報教育研究センター年報'94通巻第３号	本学の情報教育の方向性を検討するに際し、私立大学情報教育協会の大会での発表テーマについて検討を加えた。その結果、質的変化という面からは、基礎的教育と応用的教育の両方が整備されつつあり、また、教育環境がネットワーク化されていることを踏まえた教材開発が進みつつあることが分った。また、量的な面では、多くの大学が情報教育センターなどを設け、１年次から基礎教育を大多数の学生に行うという傾向が強まりつつある。
17. 情報教育センターの教育環境	単	1994年03月	情報教育センター年報'93	本学における10年にわたる情報教育の取り組みを総括すると共に今後に向けての課題について論じている。特に、取り組みの中心となる情報教育研究センターの在り方について、一新されたセンター内の施設と関連付けながら言及した。また、学内ユーザーの利用の便を図るため、既存並びに新設の実習教室・実習ゾーンの各々の特徴を表にまとめ、情報教育環境の現状を把握し易いように工夫した。
18. 武庫川女子大学における情報教育の歩み	単	1993年03月	情報教育センター年報'91・'92	全学的な情報教育を推進する情報教育センターの立場からこれまでの取り組みを総括するとともに、現状の問題点、とりわけ情報教育の対象学生の量的増大に伴い、派生する問題について分析し、将来に向けての提言を行っている。（pp.13～26）
19. 女子大学の情報教育拡充に伴う諸問題	単	1992年10月	私立大学情報教育協会私情協ジャーナルVol.1 No.2	勤務校における情報教育の取り組みを振り返り、企画・立案・実施・運営の過程で明らかになった諸問題について整理・分析した。一般的情報教育の具体化においては対象学生の量的増大が各種の困難を引き起こしていることを明らかにした。また、新たな発想のもとに、情報機器の個人所有の推進や独自のパソコン通信システムの構築を行う必要性があることを指摘した。（pp.22～24）
20. ハイパーメディアを利用した授業づくりの研究	単	1992年03月	武庫川学院教育研究所研究レポート第８号	大学教育の質が話題になる場合、大学での授業の在り方に議論が集中する。ＴＶなど各種の情報メディアに接して育った若者に対し、効果的な授業展開を行なうための試みとして、ハイパーメディアを利用して学生の興味・関心に即した教材作りと作品作りを学生に行なわせた。その結果、学生の学習活動に対する態度に格段の変化が見られ、出来上がった作品も教育的に質の高いものに仕上がっている。結論として、ハイパーメディアを教育に利用する場合の有効性が確認されるとともに、今後の利用に向けての留意点についてまとめた。（pp.115～226）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
21. ハイパーメディアと教育	単	1992年03月	武庫川学院教育研究所研究レポート第８号	ハイパーカードに代表されるようなハイパーメディア対応のコンピュータソフトが出現するまでの歴史と、それらが教育にどのような影響を及ぼすかについて論じている。流通する情報量の増大と、人間の情報処理能力との関連では、テキスト情報からイメージ情報への依存度の高まりは必然的であるとともに、情報の受容者である学習者の学習態度が変化したことを指摘した。（pp. 1～18）
22. 大学における情報教育の現状と課題－情報処理教育における卒業生調査報告－	単	1991年03月	武庫川学院教育研究所研究レポート第５号	情報科学を専門領域に持つ武庫川女子大学・人間関係コース、同短期大学部・人間関係学科の1987年度1988年度の卒業生について、在学中に学んだ情報科学が社会人としての活動にどのように役立っているか、また情報科学の授業に対しどのような評価をしているかなどを中心にアンケート調査を行ない、情報教育の在り方についての指針を提案している。また、女子大学における情報教育の実施状況についての調査も合わせて行ない、学院の情報教育計画実施の際の基礎資料としてまとめている。（pp. 1～132）
23. 大学における情報環境の現状と課題　－情報インフラ構築のために－	共	1990年03月	武庫川学院教育研究所研究レポート第３号	大学における諸活動を支援する情報ネットワークを構築する際に、基本となる考え方ならびに基盤となる技術の動向を論じた後、先進的な取り組みを行っている他大学および研究機関の状況について調査した結果を報告している。　分担　濱谷（pp. 1～41，pp. 101～107）
24. 生徒の学習心理をふまえた数学指導法の研究	共	1982年06月	大阪府立八尾東高等学校研究紀要第１号	西川・馬野・濱谷 数学指導上の困難点の改善のため、従来から電卓やマイコンを利用した指導法の研究を行なってきたが、さらに生徒の学習心理との関連についても考察を加え、教材を具体化する際の６つの原則とマイコン等の活用法として５項目にまとめた。　分担　濱谷（pp. 38～72）
25. ＣＡＩ実践研究	共	1982年02月	大阪数学教育会会誌第５号	西川・馬野・濱谷 マイクロコンピュータが普及してきたことを踏まえ、従来からのＣＡＩ研究を一層発展させ、マイコンを用いた教育用ローカルエリアネットワークを独自に開発した。そのシステムを利用したＣＡＩの授業を行なった結果、学習者の学習意欲を高め、学習効果が改善されることが分かった。　分担　濱谷（pp. 50～59）
26. 生徒の学習心理をふまえた数学指導法の研究	共	1982年01月	1981年度大阪府立学校教員等研究論文	西川・濱谷・馬野 1979年度に発表した「学習意欲を高める授業の研究」を、さらに継続・発展させたもので、生徒の学習心理と数学指導法との関わりについて、認知心理学からの考察を加えた。特に無気力・無関心に陥りがちの生徒や数学の学習遅進者の場合には、教授者と学習者との人格的な交流が阻害されることを指摘した。さらに、こうした困難な状況を改善するには、生徒相互の「教え合い」が、教授者が予想する以上に大きな比重を占めていること、また、教授者と学習者の人格的な交流の改善のためには第三者的なものとしての「教具」の利用が有効であることを示した。具体的には、グループ学習により、学習の社会性を生かすとともに、パソコンによる教育用ローカルエリアネットワークを独自に開発し、それを利用した実験授業を行った。1981年度優秀論文に入賞し、大阪府教育委員会より表彰を受ける。　分担　濱谷（pp. 1～26）
27. 学習意欲を高める授業の研究	共	1980年01月	1979年度大阪府立学校教員等研究論文	西川・濱谷・馬野 多様化した生徒の現状を踏まえ、生徒自身に内在する学習意欲をいかに引き出すかを授業を通して分析し、理解度・習熟度に大きな差がある数学の指導において、当時普及していた文部省基準Ｉ型卓上電子計算機を利用すると生徒の学習意欲を高め、学習効果が改善されることを示した。また、教材のテーマ毎の具体的な指導案も併せて提案した。1979年度の優秀論文に入賞し、大阪府教育委員会より表彰を受ける。　分担　濱谷（pp. 25～74）
28. コンピュータを利用した数学の指導　－１次変換－	共	1979年11月	大阪高等学校数学教育会会誌第19号（30周年記念特集号）	馬野・西川・濱谷 当時、市販され始めたマイクロコンピュータを用いて、高校数学ⅡＢの１次変換の項について、シミュレーションプログラムを作成し、それを利用した実験授業についての報告と考察を行なった。　分担　濱谷（pp. 20～23）
29. ＣＡＩ研究　－Ｉ型電卓の利用－	共	1978年07月	大阪高等学校数学教育会会誌第18号	西川・濱谷・馬野 数学を学習する上で、比較的理解度・定着度の低い生徒に対し、文部省基準Ｉ型卓上電子計算機を利用し数学Ｉの因数分解のプログラム学習を具体化した。　分担　濱谷（pp. 7～11）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
30. マルチメディア環境を利用した情報リテラシーの育成―平成14年度「特色ある教育研究」の概要―	単		情報教育研究センター年報2002　通巻　９号	大学教育の情報化を踏まえ、教育活動にマルチメディア機器を活用し、情報リテラシーの育成を目指している。具体的には、ノートパソコンを貸与し、小規模集団のゼミや演習での利用と、その多人数集団として共通教育科目受講者による利用の２つの場合について比較した。その結果、小集団ではノートパソコンの可搬性を生かした多様な利用形態が一層広がりつつあることが判明した。関係教員・学生の反応も好意的なものが多数を占める。全（pp.18）
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1. 軌跡オブジェクトによるインタラクティブ映像教材の制作と配信	共	2006年08月		阿部博信、大樫仁司、濱谷英次 軌跡オブジェクトは、映像データに登場する人や物の動きの軌跡を抽出したメタデータであり、アノテーションとして映像データと関連付けて定義する。本論文では、構築した映像教材制作ツールによる軌跡オブジェクト編集機能及び映像教材ストリーミング配信機能について言及した。
2. 「2006年問題」を踏まえた情報基礎教育の構築		2005年09月		
3. 大学入学時の「情報」の能力差に対応する情報基礎教育の取り組み	単	2005年08月		本報告は、新入生の情報リテラシーの多様化の現状を踏まえ、リテラシーレベルの全般的な改善と、個々の学生の到達レベルに配慮した教育を実現するための取り組み経過を概観している。特に、取り組みの特徴と、成果ならびに課題について分析を行ったものである。
4. 軌跡オブジェクトによるインタラクティブ映像教材の制作	共	2005年08月		阿倍博信、濱谷英次 本研究では、軌跡オブジェクトを映像データに登場する人や物の動きの軌跡を抽出した結果をアノテーションとして映像データに関連付けた形で定義する。その上で、映像教材の制作環境に着目し、軌跡オブジェクトの効率的な編集方式及び映像教材制作ツールの構築について述べている。
5. 学生の自主学習と遠隔講義に対応した教育コンテンツシステムの開発と活用		2005年07月		
6. 文系主体の私立大学におけるWebCT導入の工夫		2005年06月		
7. 映像アノテーションによる講義映像を用いた自主学習教材の制作と配信	共	2004年08月		阿倍博信，佐香清二,濱谷英次 本研究は，映像アノテーションモデルに基づく講義映像を用いた自主学習用教材の制作ツールの開発とその学内ネットでの配信利用に関するもので．開発した制作ツールは，主に講義映像と映像に関連するテキスト情報やWeb情報をアノテーションとして関連付ける機能を持つ．制作した教材はWeb教材としてネットワークを介した利用が可能であり，ユーザ単位でのブックマーク管理機能やユーザ間のコミュニケーション機能を特徴とする
8. 映像アノテーションによる講義映像を用いたマルチメディア教材オーサリング	共	2003年08月		濱谷英次・阿倍博信 大学での授業を撮影した講義映像と授業の際に使用した補助教材を元に、教員自らが自主学習用のマルチメディア教材を作成するシステムを検討し、開発に使用するオーサリングツールの開発と、教材作成をを行った。本ツールでは、ノンリニア編集の際、時間と手間を要する不要な映像のカットを自動化できる機能を持たせた。この結果、マルチメディア教材作成の編集作業を短時間に効率的に行えるようになった。
9. 外部委託を活用した情報基礎教育の実践と評価	単	2002年10月		大学入学後、約3000名の新入生に対し早期に情報リテラシーを全員に習得させるため、情報基礎教育を全学的に実施し、スキルと基礎知識の教育を、外部の専門スタッフに委託した。この結果、50数講座にのぼる同一科目の指導や評価での「ばらつき」をなくすことができるとともに、学生20名に対し１名の割合で指導スタッフを配置したことにり、従来以上の教育効果を得ることが実証された。
10. 課外学習環境の改善のためのパソコン利用予約システムの導入	単	2002年09月		情報教育環境整備のため新たに導入したパソコン約1000台を対象に、学生の自主学習を効果的に支援できるよう、パソコンの利用予約システムを開発導入した。これにより、学生の希望する日時、利用教室、使用機器を指定することが可能になり、学生からみた利便性の向上と、設備・機器の有効利用の促進という面で、大幅な改善を図ることが実現した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
11. ユーザーインターフェースを重視したマルチメディア教室の整備	単	1999年09月		大学教育において、教材のマルチメディア化に対応に出来、かつ学習者の理解を一層促す環境として教室のマルチメディア化がある。このマルチメディア化は、必然的に多種多様な機器を駆使することになるが、それらを使いこなすことは大多数の教員にとって難しい。本稿では、教員も含めたユーザーという視点から、使い易い専用操作卓の開発と、教室環境の整備の在り方と課題について考察した。
12. 教育環境としてのマルチメディア教室とインターネット	単	1998年12月		大学を始めとして、学校における教育環境のマルチメディア化が進みつつある。さらに、インターネットに象徴されるネットワークの普及は、マルチメディア化と相俟って、教師と学生・生徒の双方に大きな影響を及ぼしつつある。教師側には、教材準備の負担増加や素材吟味の重要性の増大、学生・生徒には、記録性・現実感・距離感・速度感の低下を生じさせていることを指摘した。更に、学習内容の概念化、テキスト化の重要性を述べた。
13. 文系大学における情報教育の試み－基礎的情報教育のためのカリキュラムの開発例－	単	1996年11月		大学での情報教育に対する期待や需要が高まる中で、文系の大学でこうした状況にどのように対応しているかについて論じた。特にカリキュラムを具体化する際に問題となる実習施設や指導教員の確保について、本学の例を参考として一つの考え方を提示した。また、学科の専門科目として位置付けることが困難な場合には、全学共通の科目として具体化することが有効であることを、実情を踏まえて報告した。
14. インターネット時代を踏まえた情報基礎教育	単	1996年06月		情報化の親展に伴い、全学的な情報教育の取り組みが広がりつつある。本学での取り組みは15年になるが、この間量的な拡大から徐々に教育内容の多様化への対応へと変化してきた。さらに、ここ数年の間に急速に普及したインターネット環境を踏まえ、今後の情報教育の基礎的な部分がどうあるべきかについて考察を行った。
15. 短期大学における基礎的情報教育－人間関係学科における実施例－	単	1995年12月		文系の短期大学における基礎的な情報教育のカリキュラム開発の例として、本学の人間関係学科で取り組んできた情報教育の歩みを整理分析し、その特徴について報告した。特に、本学の場合、全学共通教育科目に含まれている情報関連科目と学科の専門科目としての情報科目が互いに補完的に機能している点について言及した。
16. 学生の意欲を生かす情報教育の在り方についての考察	単	1994年09月		本学で情報教育が本格的に取り組まれるようになって５年になる。全学の学生に基礎的情報教育を実施するには、開講講座数を大幅にふやす必要があるが、さらに学生の意欲が生かせる仕組みが重要になってくる。この点で、本学の全学共通教育や特別学期中に多様な情報関係科目を用意することが有効であることを報告した。また、ネットワーク環境の理解という面で、大学独自に運用しているパソコン通信が有効に機能することも紹介した。
17. Environment for Educational Computing at Mukogawa Women's University	単	1994年08月		日米の教育工学・情報教育の関係者からなる会議において、日本の情報教育の現状を報告する一例として、本学でのこれまでの情報教育の取り組みについて紹介した。特に、文系の学生が多い場合、導入教育・基礎的教育の段階での指導上の工夫が、とりわけ重要であること、情報機器の操作に習熟させる上で、日本特有のワープロ専用機が有効であることなどを報告した。
18. マルチメディア環境と教育	単	1993年10月		90年代を象徴する情報化のキーワード「パーソナル化」「ネットワーク化」「マルチメディア化」の中で、マルチメディア環境が教育に与える影響について論じた。現状では、従来にはない教育方法が開発できる可能性もあるが、いくつかの課題を解決する必要がある。すなわち、マルチメディア情報を扱う実用的プラットフォーム、データモデル、オーサリングツール、知的所有権についての合意形成、アプリケーションの流通手段の整備などが指摘できる。
19. 一大学の経験から見た文系情報教育の課題	単	1993年07月		文系学部・学科が主体である本学の情報教育について、カリキュラムを中心に現状について報告した。情報教育が全学的に行われるにつれ、対象学生が激増し、結果的に施設・設備、スタッフ、機器管理、指導内容などについて、数多くの解決すべき課題が生じたこと、また、それらについて組織的な対応が重要になってくることを指摘した。
20. ネットワーク対応ノートワープロによる情報教育の普及と展望　－カレッジＢＢＳ運用の実際－	単	1993年05月		本学において、平成３年度より取り組んでいる大学独自のパソコン通信システム（ＭＩＥＴ）の構築および運用の状況について発表した。運用に関する部分では、ユーザーへの導入教育・ユーザーの動的な管理・登録情報のメンテナンス・利用に関する倫理

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				・ニーズの把握などを中心に論じた。また、拡充のポイントとして、通信機能付のワープロであること、ＭＩＥＴを教育メディアとして位置付けていることを強調した。
21. ネットワーク対応ノートワープロによる情報教育の普及と展望	単	1992年09月		昨年度より取り組みを開始したノートワープロの斡旋と大学独自のパソコン通信システムの構築も２年目になり、新たな段階に入った。本発表では、パソコン通信システムの運用に関する諸問題を中心に現状報告を行った。
22. 武庫川女子大学における情報教育について	単	1992年07月		女子大学としては早くから情報教育に取り組んできた本学の歩みと現状を紹介し、文系学生を主体とした大学における情報教育の在り方、カリキュラム上の留意点、施設面での配慮、日常的な維持管理のポイントなど、女子学生に対する情報教育を効果的に進めるための指針について報告した。
23. ハイパーメディア利用の授業作り	単	1992年07月		大学の自己点検・自己評価が話題になる今日、大学における授業改善が急務になっている。本研究では、各種の情報メディアに接して育った学生に対し、効果的な授業展開を行うための試みとして、ハイパーメディアを利用した。パソコンの機能の向上とソフトウェア環境の充実に伴い、ハイパーメディアは理論上のものから現実的なものになってきたが、教育利用の場面でも、学生の新たな興味・関心を喚起するとともに、学生の情報活用能力育成の点でも有効性が明らかになった。
24. 通信対応ワープロの大量導入に伴う諸問題	単	1992年06月		武庫川女子大学・同短期大学部において、一昨年度より全学的に進められている情報基礎教育の取り組みの経過と課題について報告した。とりわけ、情報化社会への対応として、当初より計画されていた大学独自のパソコン通信システムの構築は、運用管理に細心の注意と不断の努力が要求されるが、情報教育の新たなコミュニケーションが生まれ、大学活性化に寄与しつつあることを指摘した。
25. ネットワーク対応ノートワープロによる情報教育の現状と課題	単	1991年09月		武庫川女子大学・同短期大学部において、学部・学科に関係なく情報基礎教育を推進するためにノートワープロを個人所有させるに至った経過と情報教育のあり方についての原則について述べている。また、情報機器の導入に伴う付加価値として、教育用ネットワークの構築を位置付ける考え方があることを提案した。
26. Macとマルチメディア	単	1990年11月		マルチメディア対応のパソコンとして評価の高いMacを利用したソフトウェアについて紹介するとともに、ハイパーカードなどのハイパーテキストの特徴と問題点について整理し、報告した。さらに、ＬＤやＣＤによるマルチメディアソフトのデモを行ない、教材開発という視点から比較検討を加えた。
27. 情報処理教育における卒業生調査報告	単	1990年10月		筆者の勤務する大学の文系学科で行なわれている情報処理教育を受けた学生が、母校での情報処理教育をどのように評価しているかを調査し改善のための指針を得た。すなわち、基礎的情報教育の段階ではワープロの教育的価値が高いこと、プログラミング教育の意味の見直しが必要であること、情報処理教育から情報教育へ発想の転換が不可欠であること、将来に向けて学生のプレゼンテーション能力の育成が望まれることなどが分かった。
28. ハイパーカードを用いたグローバルカリキュラムの開発（1）	共	1990年08月		テキスト・グラフィック・音声・ビデオなどの各種のメディアを統一的に扱えるソフトウェアの代表ともいえる「ハイパーカード」を利用してＣＡＩ教材を開発する場合、ハイパーカードの特徴であるデータの関連付けにおける柔軟性を、どのように考慮して教材開発を行なうかについて考察した。さらに、ハイパーテキストのようなネットワーク構造のデータに対して、ＩＳＭ教材構造化法の有効性を検証するために、小学校高学年向けの教材「電気エネルギー」についてのスタックを開発した。
29. 学内ネットワークを用いた学生コミュニケーション活性化の試み	単	1989年06月		筆者の所属する学科に設けられたＬＡＮ上で、電子会議システムを利用した学生相互・学生と教官の間の双方向コミュニケーションの現状と、学生が各種情報メディアにどのように関わっているかについて報告した。
30. 電子会議システムを利用した女子大生のコミュニケーション能力育成についての研究（1）（2）	共	1988年08月		大学文学部教育学科初等教育専攻人間関係コースおよび短大人間関係学科の情報処理教育施設として、ミニコンとパソコンによるローカルエリアネットワークが設置された。このネットワークに備わっている電子会議システムを活用することにより、学生同士・学生と教官との間で、双方向的で質の高いコミュニケーションが行なわれるような学習環境の実現

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				を目指している。そのための第一歩として、コンピュータを中心とした各種の情報機器やニューメディアを、学生がどのような捉え方をしているか、現状では、コミュニケーションのためにどのような手段・メディアが用いられているかについて調査を行なった。その結果、コミュニケーションの手段としては、手紙と電話が圧倒的に多く、またパソコンなどが有用な手段として認識されるには、電子会議システムについて１カ月程度の操作実習では不十分との結果を得た。
31. 情報社会と教育	単	1986年07月		教育と情報社会との関わりについて、高等学校を中心として現状を報告した。特に、1985年度が教育における情報化元年（パソコン元年）といわれる背景について言及した。また、パソコンなどの情報機器が、教育にとってどのような意味を持つかについても紹介した。
32. 高校数学におけるマイコンを利用した授業展開	共	1984年08月		高校数学の数学Ｉの２次不等式について、グループ学習と教育用ＬＡＮ「Ｅシステム」を併用し、ドリル演習型のＣＡＩを行なった。実施に先だち、生徒の意識調査を行なうとともに、授業に対する反応を生徒の学力および性格との関連から分析を試みた。
33. 数学教育におけるマイコンネットワーク「Ｅシステム」の利用	共	1983年10月		独自に開発した教育用ＬＡＮ「Ｅシステム」を利用した高校数学の指導の実例と、システムの利用の仕方、観点及び生徒の反応についての分析結果について報告した。生徒の反応は、殆どの生徒がＥシステムによるＣＡＩの授業を肯定的・好意的に受け止めている。しかしながら各クラスに１～２名機器の利用に馴染めない生徒がおり指導上留意しなければならないことが分かった。
34. 高校数学におけるＣＡＩシステムの効果的利用法について	共	1983年08月		教育用ＬＡＮ「Ｅシステム」を用いて行なってきた数学のＣＡＩ実践を踏まえ、ＣＡＩシステムを利用する視点は①教材の提示の方法②教材のねらい③指導形態の３つにまとめられること。また、これらの各視点は、それぞれ３～５個の小項目に分類できることを示した。実践例として、グループ学習形態で技能習熟を目的としたドリル演習型のＣＡＩについて報告した。
35. 高校数学におけるＣＡＩ教材／教材化に伴う問題点と展望	共	1982年08月		筆者らのＣＡＩに関する実践と研究の結果から、高校数学において、ＣＡＩ教材を作成する上での視点を授業展開との関わり・学習形態などいくつかの項目に分類して設けることにより、教材の評価ができることを示した。
36. 教育現場におけるマイクロコンピュータの活用法	共	1982年07月		一段と身近な存在となったマイコンを、学校現場でどのように活用してゆくかについて、高等学校での様々な実践例をもとに、幅広く紹介した。
37. マイコンを用いた教育システムの開発	共	1981年12月		独自に開発した教育用ＬＡＮ「Ｅシステム」の概要と、システムの設計上の考え方・利用の実際について報告した。教育用ＬＡＮにおいては、指導する側の「学習」に対する考え方・視点が、指導効果に大きく関連することを指摘した。
38. マイコンを使った数学の指導　－１次変換－	共	1981年11月		教育用ＬＡＮ「Ｅシステム」を用い、グループ学習との併用による数学の指導を行ない、その実践の詳細と生徒の反応について分析した結果を報告した。
39. マイコン等を利用した数学の指導　(1)　マイコン等を利用した数学の指導 (2)　マイコン等を利用した数学の指導 (3)	共	1981年08月		ポケット電卓、プログラム式卓上電卓、ポケコン、マイコンなどを数学指導上の教具として用いる場合の考え方、主な活用法、留意点について、実践研究に基づいて報告した。また、PC-8001を用いた独自の教育用ローカルエリアネットワーク（Ｅシステムと呼ぶ）の開発の経過と概要、およびそのシステムを利用した授業の詳細と、関連して開発した教材プログラムについて紹介した。
40. マイコンを利用した高校数学の指導　－１次変換－	共	1980年08月		マイコンとＣＲＴディスプレイとの組み合わせにより、教材の動的表示が容易にできるようになったことを利用して、数学ⅡＢの１次変換の学習にシミュレーション型ＣＡＩとして教材作成を行なった。
41. マイコンを利用した高校数学の指導	共	1979年11月		マイコンを利用して、数学の学習指導上の困難点を解決する手掛かりを得るための実践研究についての報告。生徒の学習心理を考慮したグループ学習との関連について着目して研究を行なった。
42. マイコンを利用した数学の指導	共	1979年10月		マイコンを利用して１次変換の性質を調べるシミュレーションプログラムの開発例と、実験授業についての研究報告。当時市販され始めたばかりのワンボードマイコンにBASICインタプリタを接続してシステムを作った。
３．総説				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 新入生の適応支援	単	2012年12月1日	ＩＤＥ現代の高等教育（2012年12月号）	近年、大学において学生の適応支援が課題となっているが、本学においては従来から学級担任制、初期演習など、先進的ともいえる取組みを重ねてきた。近年では、共通教育科目においても適応支援となる科目を設定した。こうした取組み全般について総括的に記述した。
2. 国際化時代のプレゼンテーション　人間学研究第10号		1994年		
3. 人間関係学の新しい展開　学院創立55周年記念・人間関係学科主催シンポジウム		1994年		
4. 情報化のゆくえ　人間学研究第９号		1993年		
5. プログラム言語の学習　「どの言語をどう学ぶか」　教師のためのプログラム言語入門　ぎょうせい　月刊「教育マイコン実践」1988年10月号		1992年		
6. 大学内のパソコン通信　学研「ＮＥＷ教育とマイコン」1989年４月号		1992年		
7. ワープロと情報化社会　人間学研究　第４号		1992年		
8. コンピュータリテラシーとは　人間学研究　第５号		1992年		
9. 授業で使えるやさしいコンピュータプログラム　「関数のグラフィックツール」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1990年11月号		1992年		
10. 授業で使えるやさしいコンピュータプログラム　「電子さいころ」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1990年12月号		1992年		
11. 授業で使えるやさしいコンピュータプログラム　「最大公約数を求める」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1991年１月号		1992年		
12. 先輩から見た情報科学　－卒業生調査報告より－　人間学研究　第６号		1992年		
13. 授業で使えるやさしいコンピュータプログラム　「自然数の多倍長計算（加法）」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1991年３月号		1992年		
14. 授業で使えるやさしいコンピュータプログラム　「自然数の多倍長計算（減算）」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1991年４月号		1992年		
15. 授業で使えるやさしいコンピュータプログラム　「自然数の多倍長計算（乗算）」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1991年５月号		1992年		
16. 授業で使えるやさしいコンピュータプログラム　「自然数の多倍長計算（除算）」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1991年６月号		1992年		
17. 授業で使えるやさしいコンピュータプログラム　「関数のマルチウインドウ表示」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1991年７月号		1992年		
18. 市販ソフトの活用（1）　「Lotus １－２－３による関数のグラフ表示　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1991年10月号		1992年		
19. 市販ソフトの活用（2）　「Lotus		1992年		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
１－２－３による行列の計算」 新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1991年11月号				
20. 市販ソフトの活用（3）　「UBASICの使い方（1）」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1991年12月号		1992年		
21. 市販ソフトの活用法（4）　「UBASICの使い方（2）」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1992年１月号		1992年		
22. メディア史から見たワープロ 人間学研究　第７号		1992年		
23. 市販ソフトの活用法（5）　「UBASICの使い方（3）」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1992年３月号		1992年		
24. 市販ソフトの活用法（6）　「UBASICの使い方（4）」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1992年４月号		1992年		
25. 市販ソフトの活用法（7）　「UBASICの使い方（5）」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1992年５月号		1992年		
26. 市販ソフトの活用法（8）　「数学教材編集ソフトを検証する①」　新興出版社啓林館　月刊「啓林・高数編」1992年６月号		1992年		
27. 市販ソフトの活用法（9）　「数学教材編集ソフトを検証する②」P1.EXE編　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1992年７月号		1992年		
28. 市販ソフトの活用法（10）　「数学教材編集ソフトを検証する③」アシストレター編　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1992年９月号		1992年		
29. 市販ソフトの活用法（11）　「数学教材編集ソフトを検証する④」Milo編その１　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1992年10月号		1992年		
30. 市販ソフトの活用法（12）　「数学教材編集ソフトを検証する⑤」Milo編その２　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1992年11月号		1992年		
31. 市販ソフトの活用法（13）　「数学教材編集ソフトを検証する⑥」Milo編その３　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1992年12月号		1992年		
32. 市販ソフトの活用法（14）　「数学教材編集ソフトを検証する⑦」Milo編その４　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1993年１月号		1992年		
33. 大学教育とパソコン通信　人間学研究　第８号		1992年		
34. 市販ソフトの活用法（15）　「数学教材編集ソフトを検証する⑧」まとめ　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1993年３月号		1992年		
35. UBASICの活用法（1）　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1993年４月号		1992年		
36. UBASICの活用法（2）　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1993年５月号		1992年		
37. UBASICの活用法（3）　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1993年６月号		1992年		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
38. UBASICの活用法（4）　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1993年７月号		1992年		
39. UBASICの活用法（5）　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1993年９月号		1992年		
40. UBASICの活用法（6）　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1993年10月号		1992年		
41. UBASICの活用法（7）　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1993年11月号		1992年		
42. UBASICの活用法（8）　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1993年12月号		1992年		
43. UBASICの活用法（9）　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1994年１月号		1992年		
44. UBASICの活用法（10）　新興出版啓林館　月刊「啓林・高数編」1994年３月号		1992年		
45. ネットワーク環境とコミュニケーション　人間学研究　第３号		1992年		
46. 府立高等学校情報処理教育等指導の手引　大阪府教育委員会		1992年		
47. コンピュータリテラシー習得の試み　小学館　高校教育展望　’86，9月号		1992年		
48. 府立高等学校情報処理教育推進資料　大阪府教育委員会		1992年		
49. 府立高等学校におけるパーソナルコンピュータの使用事例集　大阪府教育委員会		1992年		
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
	社会情報学会 科学社会学会